

彙報

受贈雜誌

福岡女子大學開學祝典歌

本学では十一月九日、開學祝典を挙行し、
本学教授倉野憲司氏作詞（森脇憲三氏作
曲）の左記の祝典歌合唱。

一、いざや讚へん けふの日を

をみなわれらに 学術の

自由の鍵は

渡されぬ

筑紫海の

深き眞理を

もろともに

いそしみ究め

新たなる

文化の園に

かくはしき

種子つちかはん

ああ福岡女子大学

二、いざや祝はん けふの日を

をみなわれらに 大学の

叡智の門は

開かれぬ

背振山

高き技術をば

おのがじし

磨きに磨き

天雲の

向伏す極み

さいはひの

露うるほさん

ああ福岡女子大学

福岡女子大學開學記念講演會
十一月十八日午後二時より西日本新聞社
講堂にて

古典觀の變遷 本学教授 倉野憲司

Historia Naturalis. 創刊号

(福岡高等學校
自然科學部博物同好會)

九 大 国 文 学 会 誌 復 刊 号

(九 大 国 文 学 会)

至 誠 第 七 号

(九 大 附 属 医 学 專 門 部)

福 岡 經 專 論 叢 I

(福 岡 經 專 人 文 科 学 研 究 所)

九 大 文 学 復 刊 第 一 号

(九 大 学 友 会 文 芸 部)

福 岡 商 大 論 叢 I

(福 岡 商 大 人 文 科 学 研 究 所)

学 術 紀 要 第 一、二 輯

(熊 本 女 子 大 学)

哲 学 年 報 第 九、十 輯

(九 大 哲 学 研 究 会)

史 淵 第 44 輯、第 45 輯

(九 大 文 学 部 内 九 州 史 学 会)

法 文 論 叢 第 一 号

(熊 本 大 学 法 文 学 会)

西 南 学 院 大 学 論 集 第 二 卷 第 一 号

(西 南 学 院 大 学 学 術 研 究 会)

昭 和 医 科 大 学 紀 要 第 2 号

(昭 和 医 科 大 学)

紀 要 第 一 輯

(愛 知 女 子 短 期 大 学)

歴 史 第 二 輯

(東 北 史 学 会)

樟 蔭 文 学 第 二 号

(大 阪 樟 蔭 女 子 大 学)

語 文 第 一 輯

(大 阪 大 学 国 文 学 研 究 室)

文 学 研 究 第 四 十 輯

(九 州 文 学 会)

研 究 紀 要 第 一 輯

(広 島 女 子 短 期 大 学)

国 文 学 研 究 第 三 輯

(早 稻 田 大 学 国 文 学 会)

久 留 米 大 学 論 叢

(久 留 米 大 学 商 学 部)

法 政 研 究 18 卷 2 号

(九 州 大 学 法 政 学 会)

以上(一九五一・二・一現在)

編輯後記

昨秋開学記念式典と日を同じくして創刊号を出した「文芸と思想」も、いよいよこゝに第二輯を送り出す運びとなつた。全国の各大学研究室、図書館、その他関係各方面に寄贈された本誌は、その体裁、内容ともに、意外に相当の好評を博したやうである。掲載論文に関して寄せられた好意ある忌憚なき批評は、二三に止まらない。この様に我々日常の研究の一端を世に問ふと同時に、これを機会に自己反省を重ねることは本誌創刊の趣旨に副ふことであり、学に志す我々の成長に必要缺くべからざることである。いふまでもなく、学問の道は険しく厳しい。学外よりの批判は最も必要であるが、我々が自己自身に加へる自己批判は如何に厳しくあつても、あり過ぎることはない。本誌が号を重ねる毎に益々内容を充実させ、学界にその存在を認められる日を

待望するものである。本号に掲載の論文七篇、今回は応募論文に適當のものなく割愛することゝした。機関誌の発行も一号、二号を出すことは容易である。三号以後執筆、内容ともに偏ることなく、文芸と思想の名にふさはしい広く深い内容をもつものとするが、我々の念願である。

次に執筆者の紹介をしておく。

倉野憲司	福岡女子大学教授
米田登	同 教授
玉泉大梁	同 講師
村井観亮	同 助教授
板垣恭三	福岡女専講師
中島源治	福岡女子大学助教授
石本キミ	福岡女専講師

(讚井)

昭和二十六年二月二十五日 印刷
昭和二十六年三月一日 発行

第二号

福岡市須崎裏町 福岡女子大学

「文芸と思想」編輯委員

編輯者 倉野憲 中島源治

発行者 倉野憲 藤次郎

印刷者 間藤次郎

福岡市渡辺通四丁目

印刷所 秀巧社印刷株式会社